令和7年4月11日

第4回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 4 号

令和7年 第4回 定例会

日時：令和7年4月11日（金）午前10時

場所：区議会第二委員会室

「出席」	教 育 長	丹 羽 恵玲奈
	教育長職務代理者	清 水 俊 明
	委 員	小 川 賀 代
	委 員	福 田 雅
	委 員	中 野 円 佳

「説明のために出席した教育局職員」	教育推進部長	吉 田 雄 大
	教育総務課長	熱 田 直 道
	学務課長	宮 原 直 務
	教育推進部副参事	内 山 真 宏
	教育指導課長	山 岸 健
	教育施策推進担当課長	藤 咲 秀 修
	児童青少年課長	日比谷 光 輝
	教育センター所長	木 内 恵 美
	真砂中央図書館長	猪 岡 君 彦

「書記」	庶務係長	大 川 育 子
	庶務係主査	平 手 由佳莉

令和7年

第4回教育委員会定例会

令和7年4月11日（金）午前10時
場 所 第二委員会室
議事録署名人 福田雅委員

第1 議案の審議

- 第27号議案 「子どもを伸ばす親になれる講座」の後援名義の使用について（継続審議）
- 第35号議案 「全建総連第48回住宅デー」の後援名義の使用について
- 第36号議案 「謎解き～文京区愛の駅～」の後援名義の使用について

第2 報告事項

- (1) 令和6年度後援・共催名義使用承認事業一覧について (資料第1号)
- (2) 令和7年度教育職員の異動状況について (資料第2号)
- (3) 文京区立中学校部活動地域移行実施計画2026（素案）について (資料第3号)

第3 その他の事項

「開 会」

(10:00)

○丹羽教育長 では、定刻になりましたので、第4回教育委員会定例会を始めさせていただきます。
まず、出席状況から確認させていただきます。委員は、全員ご出席いただいております。理事者も、全員出席しております。
本日の議事録署名人でございますが、福田委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(はい)

第1 議案の審議

第27号議案 「子どもを伸ばす親になれる講座」の後援名義の使用について（継続審議）

○丹羽教育長 それでは、議案の審議に入らせていただきます。本日は3件ございます。
初めに、前回の会議からの継続審議になりますけれども、第27号議案「子どもを伸ばす親になれる講座」の後援名義の使用についてでございます。
この件について、説明をお願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第27号議案、「子どもを伸ばす親になれる講座」の後援名義の使用につきまして、前回の令和7年3月の定例会において審議しました議案の継続審議でございます。

前回の審議におけるご指摘を踏まえ、講座で使用する資料の提供を受け、4ページから15ページに追加をいたしました。それ以外の部分については前回の内容と変更はございません。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 それでは、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○中野委員 スライドを入れていただいたので、内容のイメージがより湧いて、判断できると思うんですが、スライドの内容のここがどうかみたいなもので後援名義使用を承認するかどうか議論していいものなんでしょうか。

○丹羽教育長 熱田課長から説明していただきます。

○教育総務課長 これは後援名義ということで、全体として緩やかに見て、方向性として区の考え方、教育委員会の方針に反していなければ、後援を認めるという形で従来やってきていただいております。

○中野委員 わかりました。そういう意味では、全般的にはいいのかなと思ったんですけども、個人的には、もし後援する相手方にコメントをつけられるとしたら、1点だけ。ジェンダーバイアスを助長するような表現をしないように気をつけてほしいみたいなことを入れられたりするんでしょうか。

○教育総務課長 例えば、この資料の中にジェンダーバイアスを助長するような表現があれば、それを相手に伝えることはできますけれども、特にそういうのでなければ、ここの内容にそれを加え

てほしいというのを伝えるのは難しいかなと思っております。

○中野委員 具体的に申し上げますと、スライドの何ページ目かはわからないんですが、資料でいう9ページ目の「あなたとご主人（親）の脳の使い方は同じだと思いますか？」というのは、そもそも母親が参加して、「ご主人」という言い方も今はちょっとどうかなと思うので、そこだけ気になりました。

○教育総務課長 ご意見は主催者に伝えさせていただきます。それで修正が入るかどうかはあちらにお任せするという形になろうかと思えますけれども、承知いたしました。

○教育推進部長 教育委員の先生にそういったご意見が出たので、それはこの場で合議で修正してほしいということで決めていただければ、ここは修正してくださいということでお話しはできます。そういう流れになろうかと思えます。

○丹羽教育長 同じページのところは、私も実はちょっとひっかかりました。多分、見てひっかかる方は多いと思いますので、修正いただくという意見を付しての承認という形でしたらいかがでしょうか。よろしいですか。

そうしたら、お諮りいたします。皆さん結構ひっかかると思われるところについては意見を付して、修正できるものはしていただくという条件で、こちらを提案理由のとおりお認めしたいと思えます。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○丹羽教育長 では、そのように決定させていただきます。ありがとうございます。

第35号議案 「全建総連第48回住宅デー」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 続きまして、第35号議案「全建総連第48回住宅デー」の後援名義の使用についてでございます。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第35号議案、「全建総連第48回住宅デー」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、全建総連東京都連合会東京土建一般労働組合文京支部。

代表者は、大谷隆司でございます。

事業名は、全建総連第48回住宅デー。

実施は、令和7年6月8日（日）から11月30日（日）までの期間のうち、2日間を予定しております。

実施場所は、文京区内公共施設でございます。

本事業は、地元の建築職人が地域の住民のよりよい住まいづくりをお手伝いする日として、住宅相談等の実施を通して地域住民に地元の建設業を理解していただくと同時に、子供木工教室などの建設に係るモノづくりを子どもたちに体験してもらうことにより、小さな職業体験を通して、家づくり、街づくりを考える一助となることを目的としております。

対象は、地域住民及び在勤者とその家族。

参加費は、無料です。

このほか、資料といたしまして、事業計画書、事業予算書、綱領・規約等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 今回の説明につきまして、ご意見、ご質問等がありましたら、お願いいたします。

○小川委員 大変意義深い取り組みだと思っておりますので、全く問題はないと思っています。14 ページに、過去の事業実績で、文京区の中とかでも物すごくたくさんやってきていたんじゃないかと思うんです。今回 48 回かと思うんですけれども、これまで依頼がなかった理由、もしくは今回改めて依頼があった理由みたいなものをご存じであれば、教えてください。

○教育総務課長 これまで区のほうに後援の申請が来て、区のほうで後援をしておりました。今回から区内の子どもたちにもぜひ来てほしい、周知をきめ細かくしたいということで、教育委員会のほうにも後援の申請が来たということでございます。

○小川委員 よくわかりました。木工教室とかもあるみたいで、お子さんたちに広く伝わるといいなと思いましたので、よく理解いたしました。ありがとうございます。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○清水委員 大変興味深い取り組みだと思っております。事業計画書に「奉仕活動による収益は、文京区社会福祉協議会に寄付します」とございます。これは毎年、例えば後ろのほうにある包丁研ぎとかまな板削り、そういうところで収益が出るんだと思うんですけれども、これまででどのくらいの収益が出ていたのかということをご参考のために教えていただければと思います。

○教育総務課長 これまでの収益の部分については、申しわけありません、事務局では把握しておりません。

○清水委員 では、また教えていただければと思いますので、よろしく申し上げます。

○教育総務課長 承知いたしました。

○丹羽教育長 ほかにいかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○丹羽教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第 36 号議案 「謎解き～文京区愛の駅～」の後援名義の使用について

○丹羽教育長 次に、第 36 号議案「謎解き～文京区愛の駅～」の後援名義の使用についてです。吉田部長、説明をお願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第 36 号議案、「謎解き～文京区愛の駅～」の後援名義の使用につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、公益社団法人東京青年会議所文京区委員会。

代表者は、吉原瞬でございます。

事業名は、謎解き～文京区愛の駅～。

実施は、令和7年7月20日（日）を予定しております。

実施場所は、文京区礪川地域で、当日行われる朝顔・ほおずき市会場内も謎解きスポットでございます。

本事業は、参加者に謎解きイベントを通して文京区の魅力を楽しんでいただき、また、文京区に在住・在勤・在学している方へ地域交流の機会を提供し、長期的にはその担い手になるきっかけとなることを目的としております。

対象は、制限なしで主に文京区在住・在勤・在学者。

参加費は、無料でございます。

このほか、資料といたしまして、事業内容、事業予算書、定款等がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○丹羽教育長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がありましたら、お願いいたします。

○福田委員 質問です。これは非常にいい企画だと思うのですが、もともとある謎解きのプログラムの周遊コースのポイントの中にほおずき市も入ってくるというイメージで合っていますか。

○教育総務課長 今回、新たな取り組みとして行うのですが、この朝顔・ほおずき市会場がむしろ拠点になるようなイメージかと思えます。

○福田委員 それであれば、この日はめちゃくちゃ暑くて、暑熱対策等の対応までしっかり求めたほうがいいと思います。私どもも、この日は毎年ブースを出させてもらっているのでよくわかるのですが、とんでもなく暑くて、ちゃんと暑熱の対策まで求められたほうがいいと思います。

○教育総務課長 主催者に確認しましたところ、会場となる伝通院ですとか礪川地域活動センターにシャワーミストを配置し、礪川地域活動センターを涼みどころとして開放するということは予定しているということでした。それ以外にも、できるだけ熱中症対策については配慮するように主催者に伝えてまいりたいと考えております。

○中野委員 私も質問です。これは基本的には親子で、個々人、責任持ってスタンプラリーみたいな感じでやるのか。それとも、ある程度主催者が管理しながら、みんなで回るといった感じなんですかね。

○教育総務課長 これは参加者が個人でばらばらにということか、それぞれ謎解きをしながら回っていくという形になります。

○中野委員 であれば、安全対策全体としてはやりつつも、親にも呼びかける。子どもが勝手に行って、コントロールできない状態で熱中症とかにならないようにということも気をつけたほうがいいかなと思いました。

○教育総務課長 承知いたしました。交通安全対策とか、そのあたりについても十分に配慮するように主催者に伝えてまいります。

○丹羽教育長 ほかにありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてよろしいでしょうか。

（異議なし）

○丹羽教育長 それでは、そのように決定させていただきます。
では、議案の審議を終わります。

第2 報告事項

(1) 令和6年度後援・共催名義使用承認事業一覧について

○丹羽教育長 次に、報告事項に入ります。報告事項は3件ございます。

1件目は、(1)「令和6年度後援・共催名義使用承認事業一覧について」でございます。説明をお願いします。

○教育総務課長 資料第1号、令和6年度後援・共催名義使用承認事業一覧について、ご説明いたします。

令和6年度は、資料のとおり、全部で71件の承認をいたしました。

内訳につきましては、後援名義が70件、共催が1件という形になっております。

このうち、初めての案件については本日のような形で、教育委員会において決定していただいております。教育委員会決定をしたものにつきましては、例えば1ページ目でいうと、2番目の「ワールド・ビジョン・サマースクール2024」の「承認過程」が「4/12」、「委員会決定」と書いてあります。初めてのものについては「委員会決定」、恒例のものについては「教育庁専決」と表示してあります。委員会決定したものは全部で18件となっております。

説明は以上でございます。

○丹羽教育長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問等はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

(2) 令和7年度教育職員の異動状況について

○丹羽教育長 続きまして、報告事項の(2)「令和7年度教育職員の異動状況について」でございます。

○教育指導課長 資料第2号、令和7年度教育職員の異動状況について、ご報告申し上げます。

初めに、園長・校長についてです。まず、園のほうですが、区内転が3名、転入が1名、退職が1名でございます。小学校のほうですが、区内昇任が1名、転入が1名、転出が1名、退職が1名、再任用が1名でございます。中学校のほうですが、区内昇任が1名、転入が1名、退職が2名、再任用が2名でございます。

次に、副園長・副校長についてです。幼稚園が、副園長昇任が1名、区内転が1名。小学校が、校長職昇任が1名、区内転が4名、転入が4名、転出が3名となっております。中学校ですが、校長職に昇任した者が1名、区内昇任が1名、そして転入が2名、転出が2名、再任用が1名となっております。

続きまして、主幹教諭並びに指導教諭の状況についてです。小学校自校昇任が3名、区内転が1名、転入が5名、転出が3名となっております。中学校では、管理職の昇任が1名、自校昇任が4名、区内転が1名、転入が3名、転出が2名、退職が3名となっております。

次に、主任教諭の状況については、表にあるとおりですが、トータルの主任教諭の人数としては、

幼稚園は副園長昇任に伴い1名減り、小学校は1名ふえ、中学校は13名ふえております。

おめくりいただきまして、最後に、教諭の状況についてです。新規採用について補足いたします。小・中学校、園の新規採用者の合計人数は64名となります。幼稚園の新規採用は18名でございます。小学校の新規採用は33名で、昨年度より14名ほど減少しております。中学校の新規採用は13名で、昨年度とほぼ同数になります。

最後に、認定こども園元町幼稚園の開園に伴い、区内の異動により園長1名、副園長1名、主任教諭3名、教諭10名を配置しており、新規採用者5名を合わせて20名の職員体制となっております。

報告は以上でございます。

○丹羽教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見や質問などがありましたら、お願いいたします。

○福田委員 もう少しトレンドというか、例えば男女の比率とか、若返ったとか、昇任の基準でこういうことを意識するようになったとか、この紙に書いてあること以外のことがあれば、教えていただければと思いました。

○教育指導課長 私のほうで新規採用者64名を幼稚園、小学校、中学校で面接させていただいて、男女比のバランスというところではとっていないのですが、今回、小学校の倍率が、昨年度が1.1倍、今年度の小学校については1.2倍というところではあります。倍率は低いのですが、かなり優秀な新規採用者を採ることができたのではないかと考えています。特に、幼稚園のほうは倍率もまだ高い現状がございまして、即戦力になるような若者が採れるようになってきているのではないかなと考えています。

プラス、幼稚園のほうですけれども、中間層がかなり少なくなってきて、年配の者と新規採用者あるいは3～4年の者が今、頑張っている状況でございます。

○丹羽教育長 例えば、校長先生の女性比率は、後で顔合わせがあるので何となくわかるかと思えます。女性の校長先生は、小学校も中学校もいらっしゃいます。

○小川委員 ご説明ありがとうございました。ことしの小学校の新規採用が前年に比べてマイナス14名ということなんですけれども、今、文京区は子どもがふえている中で、これで大丈夫なのかどうかという現状を教えてください。

○教育指導課長 現状としては、新規採用者の数については退職者とか異動者の数を埋めていった数になるので、教員数が足りないというわけではございません。また、今年度、東京都で新規採用者をかなり多く採用したというところで、学校によっては過員という形でプラスアルファの教員も張ることができました。

○小川委員 過員というのは。

○教育指導課長 組織の人数が、東京都のほうで学級規模によって決められているのですが、そのプラスアルファでつけている教員の数になります。

○小川委員 わかりました。ありがとうございます。

○教育推進部長 学校現場については、今、教育指導課長が申したとおりです。組織、特に我々文京区の区長部局などもそうなんですけれども、定数はしっかり決められています。ただ、さまざま

な事情で、特に例えば新規事業が入ったといったことで、決められた定数よりも多く配属されることがたまにあるのです。それを「過員」と、大きな意味では言っています。

○中野委員 さらに初歩的な質問なのですが、今、話題になっていた小学校の新規採用が、去年より14名減、でも33名というのは退職に比べると結構多いと思ったのです。それは子どもの人数がふえているのに対応しているということなんでしょうか。

○教育指導課長 先ほど申し上げた転任とって、他区に出られる数とか退職の数といったものを合わせた数になりますので、退職だけの数ではありません。

また、学級数も少しの上下がございますので、そういったものに合わせた採用になってきます。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

(3) 文京区立中学校部活動地域移行実施計画 2026 (素案) について

○丹羽教育長 それでは、報告事項の(3)「文京区立中学校部活動地域意向実施計画 2026 (素案)」についてでございます。藤咲課長、お願いします。

○教育施策推進担当課長 資料第3号、文京区立中学校部活動地域移行実施計画 2026 (素案) について、ご報告いたします。

初めに1「概要」をご覧ください。

令和4年12月、スポーツ庁と文化庁の連名で出された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、区の推進計画を策定し、休日の部活動の地域連携・地域移行を進めるよう示されています。このことに基づき、区の計画について文京区立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討会議で検討し、計画の原案を取りまとめました。

原案については、校・園長会、副校・園長会、PTA連合会、青少年委員、地域コーディネーター、そして児童・生徒に説明するとともに、さまざまなご意見をいただきました。ご覧いただいている計画の素案は、いただいた意見を反映し、原案を修正したものとなります。

次に、3「計画の主な内容」をご覧ください。

本計画の目的は、「休日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築」としております。この目的は、先ほど申し上げました国のガイドラインに基づくものとなっております。

その少し下の「地域移行に向けたスケジュールについて」をご覧ください。令和8～9年度に「休日における合同部活動の実施」となっております。現在、学校ごとに行っている部活動を拠点校に集まって合同で行うのが合同部活動となります。昨年度、サッカー部、野球部、バドミントン部で先行的に実施いたしました。他校の生徒から刺激を受けたり、他校と試合形式で練習できたりするよさがあると参加していた生徒は言っておりました。一方で、複数校で行う場合の連絡体制の構築、そして会場校までの移動が課題となりました。まずは休日の合同部活動を実施し、その後、平日も含めた部活動の地域移行へスムーズにつながられるようにいたします。また、アンケートで児童・生徒のニーズを把握し、新しい種目による合同部活動も実施できるよう準備を進める予定となっております。

最後に、4「今後の予定」をご覧ください。

6月に本計画を議会で報告いたします。そして、8月にパブリックコメントを実施し、ことしじ

ゆうに計画を策定する予定としております。

報告は以上です。

○丹羽教育長 それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

○清水委員 国からの要請に従ってこういった取り組みを行っていくというところだと思いますけれども、せつかくやるのですから、やはり文京区のこういったところがより発展的であるということがあればと思います。そういった、文京区の特徴的な取り組みその他がもしあれば教えてください。

○教育施策推進担当課長 文京区らしさといいますと、まず1つ考えられるのは大学が多いところが挙げられると思いますので、大学との連携を今後深めていくことができればと思っております。実際、大学生の何人かは部活動指導員として今ご活躍していただいているので、そこを拡充できる体制を整えていきたいと考えております。

もう一点は、ご協力いただける企業なども文京区内には幾つかありますので、そういった企業なども部分的に、あるいはかなり大きい部分で協力していただけたらと考えております。そのような区内にある大学、区内にある企業などと連携を深めるというところは、文京区らしさが出せると考えております。

○清水委員 スポーツをやるにはグラウンドとか体育館が必要になってくると思うのですが、その辺の確保に関してはいかがでしょうか。

○教育施策推進担当課長 現段階で考えているのは、まず中学校の体育館やグラウンドを使うことを原則としております。そこで不十分なところがあれば、今委員がおっしゃったように、区内にある施設を借りることを想定しておりますが、多くの区民も施設を使っているところですので、そこら辺はバランスを見ながら、どの施設を使うか適切に考えていきたいと思っております。

○小川委員 ご説明ありがとうございます。試験的に拠点校に集まってやっているというご報告だったかと思うのですが、集まったときに、子どもたちの指導とか管理といったことはどのような形で行っていたのかを教えてください。

○教育施策推進担当課長 顧問も一緒に集まりますので、指導責任はまずもって顧問が担っていくこととなります。ただ、このときは合同部活動にゲストティーチャーとして、野球部はジャイアンツアカデミー、バドミントン部もクラブチームにお越しいただいております。ただ、基本的にその指導責任は顧問にございます。

○小川委員 もともと休日の部活動の教員の負担を軽くするのが目的で地域移行が始まったと認識していた部分があるのですが、顧問がそちらについていたら、他校に練習試合に行っているみたいな感じで、結局休日ではなくなってしまうような体制なのかなと今ちょっと思っていました。その点についてはどのように進めていくご予定か、教えてください。

○教育施策推進担当課長 委員ご指摘のとおりでございますので、合同部活動の持ち方について、検討するワーキンググループをこのたび設置いたしまして、この4月から検討してまいります。どのような形にすれば、合同部活動を行いながらも教員の負担軽減につながるかを検討しながら進めてまいります。

○小川委員 教員の負担が軽くなるのが目的の移行だと思しますので、話し合いが必要かと思えますけれども、ぜひ進めていただければと思います。

○中野委員 私からも。顧問の先生の負担を減らしてほしい思いはもちろんある一方で、安全管理。きのうも奈良の部活動で雷の事故がありました。大学生で部活の指導をしてくれる学生さんとか、民間企業のやっている習い事とかでも、指導する人の知識にかなりばらつきがあると感じて、危ないと思うことも多いので、そういった研修なのか、かかわる人たちの知識をふやしていくこと。あと、性犯罪も。学校の顧問だったら起こらないということでもないんですけれども、いろんな人がかかわることになると、リスクが高まる場所もあるので、そういった観点も踏まえて、ワーキングで議論していただければと思います。

○教育施策推進担当課長 ご指摘ありがとうございます。まさに指導者の確保とあわせて、指導者の育成のところは非常に課題になってくると考えております。昨年度、文京区では、部活動指導員に対して二度研修を行いました。一度は安全管理の部分、一度は今、性犯罪という話がありましたが、ハラスメントを含めた事故防止の研修を進めているところです。その辺も、今年度も引き続き行いながら、指導者の育成に努めてまいります。

○丹羽教育長 ほかにいかがでしょうか。

○福田委員 結構長くなってしまうテーマだと思うので、この場で本質的な話をするのは結構難しいと思ったのですが、これは素案ということですので、拝見していてそんなに違和感はないのです。一方で、教員の負担軽減という視点から全てが進められている気がいたします。しょうがないことだと思うのですが、そこが起点だと思うのです。生徒の視点というか、もちろん保護者も大事ですが、やはり生徒なんですね。例えば、「段階的に実施」とさらっと書いてあって、我々は、ああそうか、令和何年にできるのかと思うのですが、今中学校3年生の子は卒業してしましますし、今、目の前の子どもたちの幸せというか、その視点は欠落させないでほしいと思います。そういう意味で、急いでいただきつつも、今、目先、何するかということも同時並行で、できる限りのことをやっていくということをお願いしたい。

あとは、いろいろあったと思いますが、企業とか大学と組んでいくというのは文京区としての強みだとは思いますが、例えば日本サッカー協会にしたって、バスケットボール協会にしたって、柔道にしたって、スポーツの統括団体があって、そういうところの力もかりるべきだと思います。その力をかりる際に、トップ同士が、やりましょう、いいですねで大卒合意、具体的に落ちないということは多々あって、特に東京大学などもそういう傾向はすごく強いと思えますし、日本サッカー協会に何か依頼するにしても、具体的にこういうことをお願いしてほしいということまで落とし込んでいただけたらと思うところであります。

最後にもう一点は、担い手となるのが、今までは学校と生徒、保護者というだけだったのですが、今度はそれ以外に事業者とか外部の指導者という人たちが出てくるわけであって、その人たちにとってもサステナブルなものかどうかという視点は忘れずに検討いただきたいと思うところです。

もう一点、最後に。部活動は本当に難しい。特に運動部は、何をめざすかによって物すごく難しいと思っています。もちろん、部活動を通じての成長は欠かせないものですが、競争という

視点をどこまで入れていくのか。特にスポーツにおいては、勝つことを求める過程での学びだと思うのですが、どこまで、何を目標に設定するのか、ゴール設定をしっかりとしないと、事業者さんも結構変わってくる気はするので、そういうのも含めてもう少し多角的に検討する項目があるのかなと思いつつ見せていました。

○教育施策推進担当課長 4点あったかと思えます。

1点目、子どもファーストであってほしいというところは、まさにそこでして、我々としても、子どもを中心に携えて、この計画を策定、推進していきたいと思っています。

お手元の素案の7ページをご覧になっていただきますと、「地域移行のイメージ」という図の下に4つ四角囲いがあると思います。最初は3つだったのですが、生徒から意見を聞きまして、「同じ目的を持った生徒同士で部活動を行いたい」という生徒がおりました。その生徒の意見を踏まえて、左下にある四角に「同じ目的」を取り入れたところです。引き続き今後、児童・生徒のアンケートを行う予定です。この計画は、児童・生徒のニーズをしっかりと把握しながら推進していきたいと思っております。

2点目の、大きな団体との連携だけでなく、具体的に落としていくというところにつきましては、引き続き検討会議あるいはワーキンググループを今年度開催していきますので、そちらのほうでしっかりと具体的に落とせるように話し合いを進めてまいります。

そして、何を指すかというところにつきましても、先ほどアンケートを申し上げましたが、どのようなニーズがあるのか、しっかりと把握した上で、そのニーズにどう応えられるかについては引き続き検討会議とワーキンググループで検討しながら進めていきたいと思っております。

○丹羽教育長 この素案については、4「今後の予定」にありますとおり、12月に計画決定になりますので、それまでの間に皆様からもご意見を賜る機会はあると思います。引き続きいろいろなご意見をいただければと思っております。

資料編がオンラインに載ってしまっていて、その中に例えば子どもたちに1回目のアンケートをした結果、先生方にアンケートをした結果も載っておりますので、よろしければそれもお覧になっていただければと思います。もう少し踏み込んだ子どものアンケートをもう一回やるということになっておりますので、引き続きよろしくお願いします。

この件について、ほかに何かありますか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、報告事項はこちらで終わります。

第3 その他の事項

○丹羽教育長 第3の「その他の事項」になりますが、何かございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、第4回定例会はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

(10 : 41)

令和7年4月11日

議事録署名人

教育長

委員